

平成16年度実績評価 事務事業進行管理表

事務事業名	地域舞台芸術育成事業			財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	
部等名	教育委員会	課等名	文化会館	内線	4220						
政策体系上の位置付け	政策	歴史風土を活かした文化のまちづくり			関連計画、条例等						
	施策	市民主体の文化芸術の創造									
事業区分	政策的事業	新規、継続区分	継続								
事業期間	H5年度～	H17年度	環境調整会議の必要性	なし							

【D0】(1)この事務事業は、次の目的を達成することを目ざします。

目的の記述	対象 (人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値 (実績・現状)			
	飯田下伊那で活動するアマチュアの舞台芸術団体	前年度伊那谷文化芸術祭参加団体数(団体数)	当初(15)	17年度	80	
			16年度	79		
	前年度伊那谷文化芸術祭参加人数(人)	当初(15)	17年度	2000		
		16年度	2000			
	意図 (成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値 (実績・目標)			
市民の舞台芸術団体がその主体的力量を高め、より高度な舞台芸術の創造を目指し、芸術性を高める。それとともに、ジャンルごとに開催することにより、グループ、団体の連携を図る。	講習会参加団体の割合(%)	当初実績(15)	最終目標			
		16目標	22	16実績	19	
		17目標	22			
	講習会参加人数の割合(%)	当初実績(15)	最終目標			
		16目標	60	16実績	73	
		17目標	60			

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	地域の舞台芸術団体に呼び掛け、ジャンル別に希望する専門家を招聘してクリニックを実施する。習得した技術、成果を毎年実施している「伊那谷文化芸術祭」等において発表する。団体独自の発表ばかりでなく、ジョイント(共通)ステージを行い団体間の交流を深め、地域文化活動の推進を図る。また、出演者やスタッフとして携わる機会をもち、舞台運営のノウハウについて学び、総合的な視野で舞台芸術を創造するスタッフを育成する。15年度は4ジャンル(吹奏楽、クラシックバレエ、モダンバレエ、演劇)が対象となった。	吹奏楽、クラシック・バレエ、モダン・バレエ、演劇などが応募予定。各ジャンルが独自に講師を選定し、レベルアップをおこなう。(計画事業費1,350千円)	講座数22回	19回
	16年度の実績			
	17年度計画	平成16年度と同様に、吹奏楽、クラシック・バレエ、モダン・バレエ、演劇などが応募予定。各ジャンルが独自に講師を選定し、レベルアップをおこなう。(計画事業費1,350千円) 当事業は、平成17年度をもって終了する。	講座数20回	

<金額の単位:千円>		16予算額	16決算額	17予算額
事業費	特定国庫支出金			
	特定県支出金			
	財源			
	起債			
	その他			
	一般財源	1,350	1,350	1,350
	事業費計(A)	1,350	1,350	1,350
人件費	正規職員所要時間	50	50	50
	臨時職員等所要時間			
	人件費計(B)	176	176	176
	トータルコスト A+B	1,526	1,526	1,526

特定財源内訳

(3)この事業目的の達成は、次の上位(政策や基本事業)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 (この事務事業の上位目的)	上位成果指標(例:施策の成果指標)と単位	上位成果指標の数値			
	この事業の支援で講習を行い、受講した者がリーダーとなり、当該所属のグループ、団体の指導者となっていきレベルアップを図る。また、成果発表を行うことにより、より多くの市民への舞台芸術の普及がなされる。	伊那谷文化芸術祭出演団体(団体数)	16目標	80	16実績	79
			17目標	80		
	伊那谷文化芸術祭観客数(人)	16目標	7600	16実績	9730	
		17目標	10000			

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
文化協会からアマチュアのクリニックの要望が寄せられていたことを踏まえ、平成5年、飯田市が文化庁の地方拠点都市の指定を受け、地方拠点都市地域文化推進事業としてはじめられた。	平成5年～9年度までは文化庁の地方拠点都市地域文化推進事業として行われ、10年度以降は市の単独事業となっている。	参加ジャンルからの報告書などから、市民のニーズがあることが読み取れる。

【 See (16年度の事業評価) 】

目的 妥当性 評価	意図の達成が、結果に結びつくか	(評価)	結びつく	(その理由)	成果(達成度)を向上させる余地はあるか?	(評価)	余地がある	(その理由)
		意図の見直し、拡大、縮小の必要性は?	(評価)	必要性がある		(その理由)	有効性評価	(評価)
意図の見直しの必要性は?	(評価)	必要性がある	(その理由)	類似事業の有無と統合の可能性(市以外の取組も含む)	(評価)	類似事業なし	(類似事業名、理由)	
市が関与する必要性は?	(評価)	必要ある	(その理由)	効率性評価	(評価)	可能	(その理由)	
				公平性評価	(評価)	妥当である	(その理由)	

【 Plan(改革改善案) 】

今後の事業の方向性	事業の方向性の具体化 (何を、いつまでにどうするか改革改善案)	改革改善案実施の課題と克服方法
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	技術習得のためのレベルアップを目的とした、地域舞台芸術家育成事業は終了するが、将来的には、さらに芸術性の高い舞台芸術の創造を目指した底上げ活動への転換を図りたい。	現在の市民舞台芸術創造支援事業は市民による主体的な舞台芸術を創造する際に用いられている。これを実施・発表するに際し、一定の技術が必要であることは明らかである。この技術の底上げを図るため、市民舞台芸術創造支援事業による助成を適用したい。